

船舶事故調査報告書

平成28年1月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年6月28日 11時30分ごろ
発生場所	愛媛県 ^{おおず} 大洲市青島東方沖 伊予青島灯台から真方位096° 1.2海里付近 (概位 北緯33° 44.0′ 東経132° 30.1′)
事故の概要	プレジャーボート ^{じょう} 城は、北東進中、また、プレジャーボート第7 ^{ひがし} 東丸は、漂流中、両船が衝突した。 城は、船首部に擦過傷を生じ、また、第7東丸は、右舷後部外板に亀裂等を生じた。
事故調査の経過	平成27年7月13日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 城、4.0トン 281-40504 愛媛、個人所有 B プレジャーボート 第7東丸、5トン未満（長さ8.89m） 250-23186 愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型 B 船長B、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首部に擦過傷 B 右舷後部外板に亀裂及び凹損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期、潮流 南西流約1ノット（kn）
事故の経過	船長Aは、前方約1,500mの所にB船を視認した後、左舷船首部で釣り道具の手入れを行いながら約3knの対地速力で航行を続けていた。 船長Bは、右舷前方約300mの所にA船を視認したが、A船が漂流していると思い、釣りをしながら漂流を続けていた。
分析	A船は、船長Aが、釣り道具の手入れをしていて前方の見張りを行っていなかったことから、漂流中のB船に向けて航行していることに気付かなかったものと考えられる。 B船は、船長Bが、A船が漂流していると思い、釣りをしていて周囲の見張りを行っていなかったことから、A船が接近していることに気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、A船の船長Aが前方の見張りを行っておらず、また、B船の船長Bが周囲の見張りを行っていなかったため、両船が衝突した

	ことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 航行中は、常時適切な見張りを行うこと。